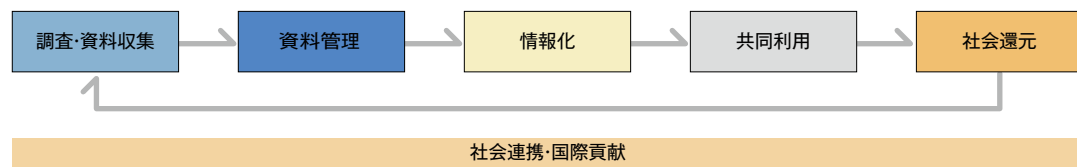


センターの設置目的

文化資源研究センターは、文化資源の体系的な管理と情報化、およびその共同利用や社会還元に向けて調査や研究開発を推進するとともに、実際に事業を推進する際の企画・調整をおこなうことを目的として、平成16年4月に設置されました。

文化資源には、人間の文化にかかわるさまざまな有形のモノやそれについての情報のほか、身体化された知識・技法・ノウハウ、制度化された人的・組織的ネットワークや知的財産など、社会での活用が可能な資源とみなされるものが広くふくまれます。こうした文化資源を人類共有の財産とすることで、グローバル化する世界で人びとが異なる文化への理解を深め、互いに共生していくための基盤をつくりだそうというのが、文化資源研究センターのめざすところです。文化資源は、調査・収集されることでその価値が顕在化され、体系的な資源管理と情報化を経て、共同利用や社会還元に供することが可能となります。これらの各ステップはまた、社会連携や国際貢献の枠組みのなかで推進されます。このような一連のステップは、下図のようなフローの形で表現できます。

文化資源の調査・収集から社会還元へのフロー



各ステップは、それぞれ、諸問題を理論的に解明する「基礎研究」、それにもとづいて方式・体系・技術の開発やそのための予備調査などをおこなう「開発研究」の段階を経て、実際の「事業」として展開されます。

文化資源研究センターは、上記の各ステップに関わる先進的な基礎研究・開発研究と事業を推進する際の企画・調整をおこないます。

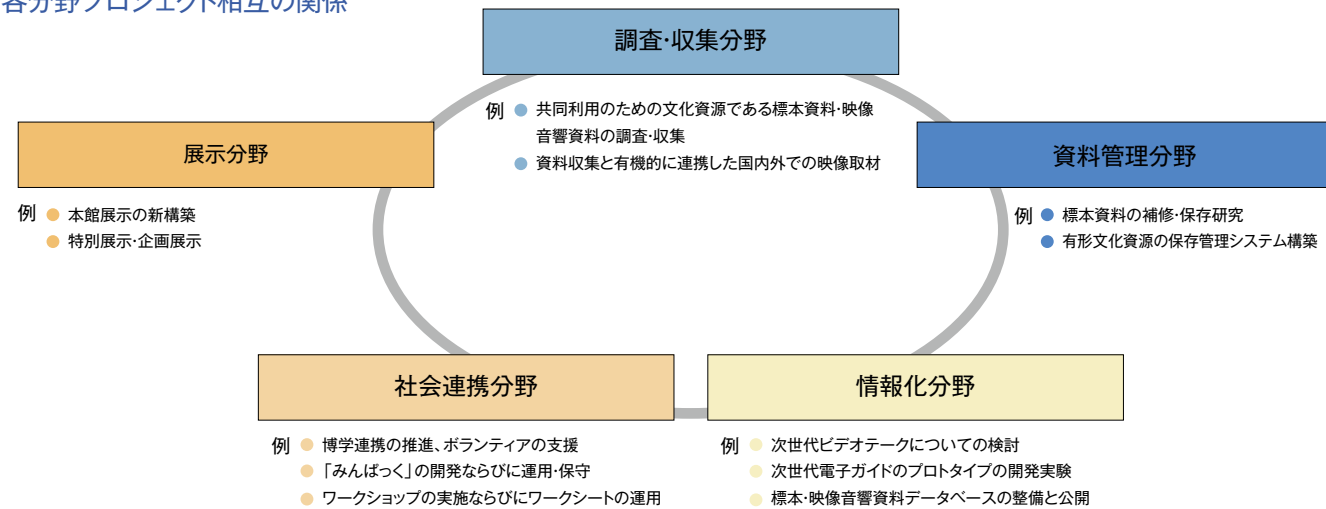
本館では、文化資源研究センターが中心となり、全館的な取組みとして、本館展示の新構築をおこないました。開館以来39年が経ち、世界の社会状況や学問のありかた、さらには来館者がみんなに期待するものも、大きく変化しました。こうした変化に対応し、大学共同利用機関としての機能を最大限に活用してもらえるように、国内外の大学や博物館と共同しつ、最新の研究成果を広く社会と共有するための展示を新たに構築しようというのが、本センターのねらいです。新たな展示は、展示に関わる三者、つまり展示の作り手としての研究者、展示の対象となる文化の担い手、そして展示を見る側としての来館者のあいだの、相互の交流と啓発の場、すなわちフォーラムとなることをめざしています。また、これまでの個々の地域文化の特徴を示す展示から、グローバル化の進展にともない、それぞれの地域と世界とのつながりを示すとともに、その動態も映し出す「グローバル展示」の実現をはかります。

文化資源プロジェクト

「文化資源プロジェクト」は、第2期中期目標・中期計画に沿って、大学共同利用機関としての共同利用基盤を整備するとともに、本館あるいは関連する他機関が所有する文化資源の体系化をすすめ、共同利用を促進し、学術的価値を高めるための研究プロジェクトです。

平成21年度から研究者コミュニティとの関係を強化するために、文化資源共同研究員の制度を導入し、提案されたプロジェクトの審査について、外部の有識者による意見聴取の制度も取り入れました。

各分野プロジェクト相互の関係



平成28年度文化資源プロジェクト一覧

調査・収集

現代アメリカのパッチワークキルトおよび関連資料の収集—アーミッシュキルトを中心に	鈴木七美
インドの古典音楽楽器と民俗絵画カリガートの購入	寺田吉孝
研究公演「息づく仮面—バリ島の仮面舞踊劇トベンと音楽」に基づいたマルチメディア番組の製作	福岡正太
研究公演「時を超える南インドの踊り」に基づいたマルチメディア番組の製作	寺田吉孝
在日コリアン音楽の現状に関する映像取材	寺田吉孝
軽業系民俗芸能の短編映像番組の製作	笹原亮二
地域社会の伝承歌の記録、継承、創造をテーマにした映像民族誌「よみがえる歌」(仮題)の制作	川瀬 慈
ネパール関連ビデオテーク番組の制作	南真木人
中国雲南省の回族に関する映像番組の編集製作	横山廣子
展示記録映像のあり方に関する実践的研究	日高真吾

資料管理

有形文化資源の保存・管理システム構築	園田直子
東日本大震災で被災した文化財の保管環境に関する調査研究5	日高真吾

情報化

「沖守弘インド写真」データベースの英語化	三尾 稔
端信行氏撮影アフリカ関係写真資料コレクションのデータベース作成	吉田憲司
「大島襄二コレクション」の整理とデータベース作成	飯田 卓
三次元CGを利用した民族建築デジタルアーカイブの構築	佐藤浩司

展示

特別展「夷酋列像—蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界—」	日高真吾
特別展「歿後150周年 シーボルトの見せたかった日本」(仮題)準備	園田直子
特別展「見世物大博覧会」(仮題)	笹原亮二
特別展「世界のビーズ—美しさに秘められた人類の知恵—」(仮題)	池谷和信
企画展「原住民族のイメージ・色・かたち・物語—順益台湾原住民博物館ポスター作品コレクション」(仮題)	野林厚志
企画展「One Road—オーストラリアの砂漠が生んだアボリジニ・アート」(仮題)	丹羽典生
企画展「人類学者が見た東日本大震災」	竹沢尚一郎
特別展「子ども・誕生—モノからみる子どもの近代」準備	笹原亮二
特別展「驚異と怪異の世界へ」(仮題)準備	山中由里子
企画展「カナダにおける先住民文化の過去、現在、未来」(仮題)準備	岸上伸啓
次世代ユニバーサルミュージアム展示空間にむけた自己評価手法と動線誘導手法の開発研究	吉田憲司
「みんなくビデオテークビューア」のインタフェースの研究	福岡正太
次世代みんなく電子ガイドの開発に向けた実証実験	福岡正太
展示場における情報提供システム再構築計画の作成	福岡正太

中央・北アジア展示及びアイヌの文化展示用電子ガイドコンテンツの製作	福岡正太
日本手話の諸方言による「手話版もたらう」の映像コンテンツ作成	菊澤律子
言語展示「世界の言語」装置のシステム開発およびコンテンツ修正	菊澤律子
ハチェカル(アルメニア十字架)—アルメニアの文化と歴史の象徴として—	新免光比呂
社会連携(研究開発)	
カムイノミ及び重要無形民俗文化財「アイヌ古式舞踊」演舞の実施	齋藤玲子
みんなく「世界のイスラーム」(仮題)の制作	上羽陽子

文化資源計画事業

「文化資源計画事業」は、研究成果を普及することを目的とした事業で、2つの分野(資料関連、展示・社会連携)に分けられます。

平成28年度文化資源計画事業一覧

資料関連

「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業	川瀬 慈
「朝鮮半島の文化」に関する映像資料の開発と制作：韓国国立民俗博物館との交流事業(映像資料収集)	川瀬 慈

展示・社会連携

巡回展「イメージの力—国立民族学博物館コレクションにさぐる」	吉田憲司
東南アジア展示の部分改修	信田敏宏
南アジア展示の部分改修	三尾 稔
ボランティア活動支援	上羽陽子
ワークショップの実施ならびにワークシートの運用	上羽陽子

その他

年末年始展示イベント「干支展」	野林厚志
-----------------	------